

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念があり、ホーム内のホールに掲げている。	○	ホーム内では、家事やレクリエーションで実践の場があるが、外出時において（ドライブの他にも）その人らしさを引き出す機会がもてるよう計画し、取り組みたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の会議やケアプラン作成時には常に確認し合い、実践できるよう心がけている		
3	—	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットを作成し、配布を行ったりしている。	○	地域との交流会や家族との交流会を持つ機会を持てるよう計画し、実行する。
<b>2. 地域との支え合い</b>					
4	—	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	あいさつや声がけは行っている。行事などでは近所の方にも参加して頂き、交流の機会がある。	○	「施設」という事で立ち寄りがたい印象をなくすように、家庭的な近所づきあいが出来るよう職員と話し合いを行う
5	3	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育所の運動会や行事に誘われ参加している	○	参加、交流の場を広げ、回数も増やせるよう計画する
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	民生委員や老人会に事業所の存在と内容説明を行い、地域の高齢者の援助が出来るよう努めている。	○	地域交流センターや公民館での介護教室等の開催を検討している。地域の高齢者等に直接事務所の存在と内容説明を行っていききたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善点については、職員会議で話し合い、日々改善に努めている。	○	改善されていない面もあるので、改善できるよう工夫したい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事内容のアイデアなどを聞き、花みずきでも新たに取り入れを検討中である。（ドライブの場所など）	○	行事などの報告に偏りがちなので内容を広げ、花みずきの改善につなげるようにしたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在行っていない。	○	地域の人に花みずきの存在や認知症について理解して頂けるよう、市の職員の方などと連携を図りながら、介護教室や交流会などの開催を考えています。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度等の研修に参加し、研修内容を会議で発表している。必要とした家族には制度取り入れに協力を行っている。	○	制度の内容を全職員がくわしく把握出来るよう研修を行っていきたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で研修を行い、日々職員同士注意しあい、防止に努めている。	○	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の状況は挨拶状や電話で報告を行い、契約締結時や解約時にも書類をもとに説明を行い、理解を得ている。あわせて同意書も得ている。	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの見直し時期には利用者から意 見を聞き入れたり、普段から利用者に見 ね、不満のないように努めている。 外部からは介護サービス相談員の受け入れ を行っている。		
14	8	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	挨拶状に利用者のその月の状態を報告、預 り金収支報告を行っている。	○	暮らしぶりについて、より様々な情報を楽 しく、また詳しく伝えられるよう工夫して いきたい。
15	9	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの見直しには家族の意見をモニ タリング調査で取り入れている。またホー ム入り口には苦情等の意見箱の設置をして いる。家族からの意見は、苦情受付ファイ ルに記載し、改善に努めている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	会議で、運営、業務についての話し合いを 行い、意見、要望を管理者から運営者に伝 える会議録の提出を行い、反映できるよう努 めている。		〈 取 り 組 ん だ 内 容 〉 職員の勤務時間、ケアの為の福祉用具の設 置等
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	会議や日頃の申し送りや提案し合い、試 行、検討を行い、柔軟に対応出来るよう努 めている。（入浴や外出、不穏状態続く利 用者の為の日勤職員の人数調整）		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の事情により勤務が困難になった場合 でも、非常勤職員としての雇用を促進した り、他事業所への異動を行う事で離職を防 いだりしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別の判断はなく、年齢層は20代～60代である。採用当時無資格であっても、個人の意欲を尊重し、採用後も個性を生かしたケアの実施に努めている。 (例：レクリエーションや行事企画内容)		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する研修を代表で受けた職員は、会議で資料配布し、研修内容を報告し、理解を深める機会をもうけている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種、施設内外研修に参加の機会をもうけている。また資格についても、より専門性のある資格の取得の呼びかけ、実施を行っている。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、情報交換や職員研修を行っている。また、法人全体で類似している施設との相談等を行い、質の向上に取り組んでいる。	○	管理者同士の相互訪問は行っているが、今後は職員同士の相互研修等も行っていけるよう検討している。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	介護サービス相談員の受け入れを行ったり、勤務表などで出来るだけ職員の希望に休みが取れるよう、プライベートも尊重した方法も実施している。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得の奨励や研修等への参加を促し、職員の技術、知識の向上を図る事で向上心を持てるように努めている。	○	業務における職員の企画等を取り入れる事が出来るよう相談や指示を行い、反映させる事で向上心をもてるようにしていきたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所初期は特にこまめに訪室、声がけ、見守りする事で、困っている事、不安な事を言いやすい状態を作る。日常の状況を観察する事で、相手からの訴えがある前に職員が気づき、動けるよう日頃より注意している。	○	入所者に対する態度、言いやすい状況作りをする為、声がけを心がけているが、訴え前の気づきが出来るよう会議や研修を行い、注意できる体制をとっていきたい。
26	—	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学や電話の問い合わせ等あった際には、家族の話をよく聞き、疑問や不安に対応できるように心がけている。その後、入所になるまでの間も、よく話を聞く事で納得してもらえるよう努めている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	即入所という事ではなく、相手が必要とするものを家族、またはケアマネージャー、他職種の方と連携を取り話し合う事で、問題解決出来るよう努めている。	○	様々な協力機関との連携を広げ、いろんな問題に対応出来るよう連携作りの場を企画する。
28	15	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族の状況に合わせ、見学や1日中だけの体験、短期間のショートステイなど段階的に利用し、納得した上で利用して頂く様配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護するという視点とともに、一緒に生活するという視点から、家事や買い物、外出を共に行い、利用者から知恵を借りたり教えてもらう事で、お互い支え合って生活出来るよう努めている。		( 取 り 組 ん で い る 事 ) 料理や掃除の仕方やコツを教えてもらったり、学習レクリエーションでは昔の歌や、漢字などを教えてもらう事
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入所者に対する日頃からの情報交換を行い、趣味等を聞き、生活で生かす事で本人を支える事や問題行動の原因発見、信頼関係の構築につなげられるよう心がけている。	○	家族との交流の場をより持つ事が出来るよう、交流会の場を増やす計画を行う。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は、挨拶状や電話連絡などで、入所者の状態を報告し、面会に来られない間も、入所者の状態が分かるよう心がけている。遠方の家族には電話で連絡がとれる機会をもうけている。	○	入所者に対してのより詳しい内容（日常の状態記録など）を家族が把握できるよう情報提供を行う。
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が友人に手紙が出せるよう支援したり、電話で連絡できる機会をもうけている。外出や買い物の際は入所者の行きたい場所を尋ねるなどし、以前の馴染みの場所へ出かけるなどしている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えええるように努めている	孤立する入所者がいないようレクリエーションや外出に声がけし、参加してもらう事で、他者との交流の場をもうけている。口論になりそうな時はさりげなく職員が介入するように心がけ、世話役の方などをお願いする事で利用者同士で仲良く、交流できるよう努めている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後は疎遠になってしまう事がある。	○	手紙などを出し、連絡を取る事で、いつでも相談などに応じる事が出来るよう努めていきたい。
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
35	17	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が希望する生活リズム（食事、入浴、睡眠）に合わせられるよう希望を聞き、出来る限り調整している。また食事も希望のもの、外出も希望する所へ出掛けられるよう日頃から話題にあげたり、聞き取りを行っている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、馴染みの人、物事については家族より聞き取り調査を行うようにし、これまでの生活に沿った暮らしが出来るよう心がけている。階寿園、デイサービス利用者との交流、趣味を個人的またはレクリエーションで取り入れている。	○	家族への聞き取りをより深く行い、今までの生活の把握がしっかり出来るように、また知人との交流をこちらから働きかけられる事が出来るよう計画していく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	「私のできること・できないことシート」 「わかること・わからないことシート」 「24時間アセスメントシート」を活用する事で総合的に入居者を把握できるよう努めている。	○	できることに重点をおいたケアプランをしっかりと立てられるよう入居者の「できること」を注意深く観察し、ケアプランに反映できるよう努める。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人への希望聞き取り、家族へのモニタリング調査表を使用した聞き取り、主治医からの定期受診時などの指導をもとに、様々な意見、アイデアを取り入れるよう努めている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間ごとに職員でのケア会議、家族へのモニタリング、本人への聞き取りを行い、現在必要なケア、サービスをその都度見直しし、希望に沿ったケアが出来るよう努めている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、日誌にはやった事のみではなく、本人の言った事、職員の気づきを記し、入居者の今後のケアに生かせるよう努めている。	○	細部にまで注意をはらい、簡単な記録に終わらないよう、日々継続してとりくめるよう努力する。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設の設備や職員の技術知識を最大限に活用し、様々なサービスを提供出来るよう努めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
42	—	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアとして民生委員の方による折り紙教室に参加したり、ボランティアとして学生や前職員による大正琴演奏の受け入れを行っている。また防災訓練では消防や警察官舎の方々の協力を得、緊急時の人員要請等の連携をとっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	併設施設として、デイサービスやケアプランセンターがあるので、入居者の生活の幅を広げる為にも、デイサービスのレクリエーション参加等のサービス提供を行っている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会の会議メンバーに地域包括支援センターの職員がいるので、ケアの内容やサービスなどで相談できる体制がとれている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の同意のもとに提携医を受診している。また要望あれば、家族付き添いによるかかりつけ医を受診している。家族が付き添えない時は職員が付き添う旨も説明し、行っている。特変あれば、家族に報告行っている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医に認知症について相談出来る体制をとっている。定期受診時以外にも、疑問、特変あれば、いつでも主治医に連絡をとれる話し合いが出来ている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	提携医院の看護師やデイサービスの看護師に、常に利用者の状態については報告、相談を行い、介護についての支援を受けている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院者がある場合は、お見舞いし、その都度様子をケース記録に記載している。また家族や入院先の主治医と情報交換を行い、早期退院に努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化（他者に対しての暴力行為や体調にかかわる長期の食欲不振など）が見られる時は、家族、主治医に連絡し、入院や特別養護老人ホームの入所予約を検討している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	認知症や身体レベルが低下する事については、本人の状態に合わせ、職員で会議を行い、残存能力を生かした介護、支援に努めている。今後については家族主治医とも話し合い行っている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えの為退所時には、家族との今後の介護の話し合いや、退所後の利用施設へ情報提供を行っている。	○	退所後、利用施設へその後の本人の状態を聞き取り行う事もあるが、家族との情報交換やサポートも行えるように連絡をとっていく。
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b> <b>1. その人らしい暮らしの支援</b> <b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に年長者に接するという事を念頭に、態度や声かけに注意し、さりげない介護を目指して業務に取り組んでいる。	○	会議などで確認しあう事に加え、不適切な対応が見られた時は職員同士中止し合うようにしている。これからも馴れ合いにならないよう、気を引き締めて業務にあたる。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	衣服を決める、食事の声かけ、外出の誘いの際、本人の意思を尋ね、出来る限り本人の意思と要望に沿った支援が出来るよう努める。行事としては、ドライブ、希望昼食づくり、希望おやつ作りを企画、実行している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、本人の状態や気分に合わせて、就寝、起床、食事、入浴等を設定し、臨機応変に対応出来るよう努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣服の選択は本人の希望に沿うようにしている。理容については園に来る理容サービスを利用しているが、その際は本人の希望どおりの髪型になるよう、好みを聞き、理容師に伝えている。	○	行きつけの理容店を希望される時は家族付き添いにて、パーマなどをかけに行かれています。 今後、他入居者より外で理美容利用の希望があった際は、出来るだけ希望に沿えるよう検討する。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、配膳、下膳を一緒に行い、職員、利用者が一緒に食事を摂っている。また月に2度ずつ希望昼食作り、希望おやつ作りを計画し、希望の献立を作り食べられる機械をもうけている。		
57	—	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、たばこ等希望あれば主治医に相談し、許可を得た上で家族に報告し、了解のもと楽しめるようにしている。おやつは週1回園に来る売店を利用し、好みのおやつを購入する機会をもうけている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁がある入居者については、パッド、紙オムツ、紙パンツを検討するが、排泄チェック表をつけ、パターンに合わせた介助を行い、失禁の不快さの軽減に努めている。	○	いずれはオムツははずしが出来るよう、明確な日付の目標をたて、パッドのみ付けるなど段階的に行えるようにする。
59	26	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は基本的に1日おきで10時～12時、13時半～17時で設定しているが、本人の希望があれば、毎日入浴できる体制をとっている。		
60	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間を得に設定はせず、自由な時間を設定している。但し、居室にテレビがあり、深夜に見られる方については、他居室の方の入眠の妨げにならないよう声かけにて協力をお願いしている。		(取り組んでいる事) 入眠に問題がある方は、日中の活動のあり方(レクリエーションや家事活動の参加、外出の参加)を検討し、時には家族や主治医と相談して薬の調整も行う。また足湯なども行って様子を見ている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	マンネリ化した日々にならないよう様々なレクリエーション（製作、運動、音楽、学習など・・・）を取り入れたり、ドライブや食事作り、デイサービスでのレクリエーション参加を企画し、参加してもらう。それにより一人一人の個性や特技を見つけ、生活に生かせるよう努めている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者によっては、小銭～1万円程度のお金を自分で所持しており、売店や外出の際はお菓子などを購入している。また入居者より希望があれば、いつでも職員管理の預り金を使用でき、家族の了解のもと所持も出来る。		
63	28	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出、散歩の希望ある時は、職員が必ず1人は付き添い出掛けられようようにしている。また毎月の行事にドライブ、散歩日を設定し、気分転換など行えるようにしている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	絵画が好きな方をメンバーに入れた美術館見学や、家族の方の付き添いでお墓参り、買い物などへ出掛けている。また事前に連絡、希望があれば、出掛ける準備等支援している。		
65	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者より希望があれば、電話番号をメモで書き渡したり、代わりにまわしたり、手紙を代わりに出したりという支援をしている。また電話をかける際はホールか控え室の電話を使用し、本人の希望やプライバシーに配慮している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会時間の設定はあるが、家族より要望があれば、出来る限りの時間外面会も対応している。面会に来られた際は、職員間でも挨拶、お茶、菓子の提供を心がけ、ホールや居室どちらでも自由に過ごしていただけるよう配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、職員研修を行い、周知に努めている。やむをえず自傷行為などの為、身体拘束を行う時は、事前に家族に同意を得ており、書類に目的を記載、期間を定めて行う旨を説明している。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中入り口、居室ともに鍵をかける事は行っていない。夜間の戸締りの為、入り口のドアは鍵をかけているが、それ以外の約6：00～21：00の間は鍵をかけていない。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常にホールに1人職員がいるように努め、見守りが行えるようにしている。また、入居者の不穏な様子、困っている様子を見落とす事のないよう、コミュニケーションなどに配慮している。夜間は職員が1人になるので、巡回、個別ケア以外は常にホールにいて、対応できるよう努めている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	以前、化粧水を誤飲された事がある入居者からは化粧水を預かり、利用時にこちらから渡すようにしているが、他の洗剤や包丁類は通常の場合所に直し、必要時は入居者も使用できるようにしている。その際は怪我や事故のないようさりげなく見守るよう努めている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生時は、毎月の会議で再度経緯を確認し、注意しあう。また個別についても転倒や事故の危険について話し合い、予測される事故（夜間のベッドからの転落、移動時の転倒、離園など）について対応を検討している。	○	転倒などのありがちな事故に対する対応だけでなく、日中予測できない天災時や様々な事故にも視野を広げ、あらゆる災害に備えられるよう検討していきたい
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の施設外研修に数名の職員が代表で参加し、会議で全職員に報告、知識を共有している。緊急時の連絡体系についても、夜間を想定し、確実に迅速に行えるよう日頃より練習や話し合いを行っている。	○	会議などで検討行っているが、まだ完全といえない所が多々ある。いつ、どういう事態に対しても対応出来るよう研修や会議での検討を重ねていく。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣の軽費老人ホームや1階のデイサービスとの合同での訓練を行っている。夜間、花みずき自体が火元になった想定でも行い、近所の住民の方にも協力を要請し、訓練を行っている。	○	花みずきに非常階段を設置したので、それを使用した訓練と身体レベルに合わせ、階段使用困難な方の非難法の検討、実践と非常食、備品の確保を行っていく。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	拘束については、入所時に家族に説明し、同意をもらっている。入居者1人1人に対し、リスク（不穏な方への安定剤の投与など）はその都度家族に説明し納得して頂いている。また入居者の負担軽減の為、個別ケアを会議や日中での気づき報告などの際話し合い、検討している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝と入浴前は必ず血圧、体温を測り、記録表をつけ、個人の変化にすぐ気づき対応できるように努める。変化に合わせてすぐに医療機関を受診するよう提携医とも連携がとれている。	○	日頃から血圧以外でも状態変化に気づく事が出来るよう、コミュニケーションや動き、顔色に注意しておく。
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の手帳をもとに、個人別の薬の表を作成し、理解に努めている。薬の量や、種類が変わった時は、職員間の申し送りノート記載や口頭での申し送りを行い、伝達し間違いのないよう努める。また経過については、その都度主治医に報告し指示を受けている。	○	今までは家族には電話などでの簡単な説明であったが、今後は表などでわかりやすく説明していく。
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	栄養士によるバランスのとれた食事と、日々取り入れている運動レクリエーションや定期的な水分摂取で便秘予防に努める。また便秘がちな入居者には排便チェック表をつけ、個別に水分摂取、運動、バランスよい食事を勧め、それでも便秘時は主治医に相談し便秘薬使用する。その際は指導に従って処方し経過も記録報告を行う		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後は、歯磨きの声かけを行い、困難な方には強制にならないよう注意しながら、口腔ケア援助を行う。義歯は週1度薬剤につけ洗浄行う日を設定している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500CCを目標とし、水分摂取に心がけている。摂取不足と思われる方には個人的に水分チェック表を作り、1500CCに近づけるようこまめに摂取を勧めている。毎月月末に体重を測り、健康管理の目安にもしている。		く取り組んでいる事） 主食のみに偏りがちな方には副食の摂取も声がけにて勧めている。メニューについては栄養士の作成したものにに基づき、料理し、月に2度ずつ希望昼食、おやつ作りを設定し、出来るだけ入居者の嗜好品を取り入れる事が出来るよう心がけている。
80	—	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対するマニュアルを作り、会議の時間を利用し、職員に研修行っている。日頃より一行為一手洗いを全職員で実行している。（必要時はビニール手袋着用）	○	繰り返し、会議や日中の申し送りでも意識し合い、防止に努めてゆく。
81	—	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁、まな板は除菌スプレー（塩素系）で殺菌、煮沸消毒行っている。1日3食後に行い、調理担当者がサインを行うようにしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花壇などがあり、2階までの階段には絵や手作りの入居者の写真付きの作品などを飾って、2階入り口にも花を生け、明るい雰囲気づくりを心がけている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ音量、照明に配慮し、花を生けたり、ベランダの扉を開放、天窓を開け、風を入れるなどすることで居心地よく過ごして頂けるよう努めている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブルにそれぞれ座り、テレビを眺めたり、ホールに設置している畳に腰掛けられるスペースをもうけることで、仲のいい人同士や1人で過ごせる雰囲気づくりに努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前愛用された物を持ち込んで自由に居室づくりをして頂くよう支援している。エアコン、カーテン、ベットは施設備え付けのものであるが、収納ダンス、シーツ、小物等は入居者愛用品や好みの物を持ち込まれている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中、夜間、定期的に換気行い、空気のだよみに気をつけている。天気の良い日や夏場には天窓を開け、自然の光と風を取り入れられるようにしている。個室ごとのエアコンは温度設定に配慮し、快適に過ごして頂けるよう気をつけている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差や家具の配置は注意し、常に利用者の妨げにならない設置を行う。角には保護パッドを取り付け、打ち身などの怪我の防止とする。体力が低下したが寝たきりにならないよう車椅子で過ごして頂く際は可動域にも気をつけ、その都度話合い、家具の配置を工夫している。		家事活動等も一緒に行う事で出来る事だけでなく、不便さの発見にもつながるよう努め、改善を行っている。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	身の周りの汚れや認識違いを起こしそうな物、衣服に気をつけ、混乱を見逃さないよう見守りし、さりげなく手伝うようにする。以前混乱を起こし、事故につながったような物は職員が預かり、見守りのもと使用して頂く。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに花壇を作り、入居者が水やりなどの世話をしている。洗濯物干しも、2、3人の利用者に声かけし、一緒に行うようにしている。	○	ベランダでくつろぐ事が出来る空間づくりの工夫が必要であるので検討する。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目</b>						
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の		
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの		
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの		
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない		
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある		
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある		
			<input type="radio"/>	③たまにある		
			<input type="radio"/>	④ほとんどない		
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように		
				②数日に1回程度		
				③たまに		
				④ほとんどない		
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどできていない		

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
 （この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

一ヶ月をとおして、ほぼ毎日レクリエーションを行っているが、毎月ピアノ演奏に合わせた歌の合唱、大正琴演奏、リハビリ体操、漢字・計算の学習、ドライブ（季節感を味わえる場所に）など多様に行うことができている。1階のデイサービス、隣りの軽費老人ホームと合同に、大人数でのレクリエーションや、納涼会、運動会、忘年会などの盛大な行事を行えている。